

施設概要

(令和7年3月31日現在)

施設名		開館時間	
桜台公民館 (桜台センター内)		窓口業務	午前8時半～午後9時
		公民館業務	午前9時～午後9時
		児童館業務	午前9時～午後5時
		図書室業務	午前9時(閲覧)～ 午前9時半(貸出)～午後5時
所在地	〒 270-1412	併設施設	児童館・図書室・桜台小学校区地区社協さくら
	白井市桜台2-14		
TEL	047-491-7111	FAX	047-404-7555
メール	sakuradai@shiroi-com10.com		
休館日	月曜日・国民の休日 12月29日～翌年1月3日	駐車場	22台 (内1台おもいやり駐車スペース)
職員構成	センター長1人・事務職(常勤)1人・事務職(非常勤)1人・児童厚生員(常勤)2人・児童厚生員(非常勤)1人・司書(常勤)1人・図書補助(非常勤)2人・夜間管理2人・清掃1人・合計12人		
貸出施設	1時間あたりの施設利用料 (社会教育認定団体は2分の1)		
	施設名	定員	9:00～21:00 付帯設備
	研修室	40 人	350 円 ホワイトボード、机、いす
	作法室	38 人	350 円 水屋、炉、座卓、座布団
	調理実習室	24 人	720 円 コンベック付き調理台、電子レンジ、炊飯器、冷蔵庫、調理器具、食器
	視聴覚室	40 人	780 円 ピアノ、テレビモニター、DVDデッキ、ホワイトボード、スクリーン、机、いす
	レクリエーション ホール	100 人	970 円 卓球台、バドミントン支柱、ネット、音響設備、更衣室、ホワイトボード、椅子
貸し出し 可能備品	(館内のみ) CDデッキ・延長コード・プロジェクター・ホワイトボード用マーカー		

令和6年度 公民館等団体別利用状況 (桜台公民館)

種別	青少年		成人		女性		高齢者		その他		個人		合計	
月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	41	571	82	1,124	11	74	2	19	18	279	7	35	161	2,102
5	49	675	82	948	6	45	1	4	24	359	13	34	175	2,065
6	45	517	90	1,105	8	54	2	4	28	399	14	54	187	2,133
7	43	519	91	1,101	5	37	1	2	33	508	10	64	183	2,231
8	31	425	84	793	9	53	1	4	22	185	14	74	161	1,534
9	37	488	86	852	8	50	1	5	29	370	10	44	171	1,809
10	36	602	92	927	6	41	0	0	24	488	7	22	165	2,080
11	37	479	80	744	6	43	1	4	44	825	5	19	173	2,114
12	33	486	91	882	4	39	2	7	35	415	7	91	172	1,920
1	38	562	94	996	8	73	1	5	27	243	3	27	171	1,906
2	36	537	85	988	8	61	0	0	34	457	11	80	174	2,123
3	40	511	98	913	7	48	1	3	32	2,059	15	34	193	3,568
合計	466	6,372	1,055	11,373	86	618	13	57	350	6,587	116	578	2,086	25,585
令和5年度・令和4年度それぞれの合計														
R5	489	6,496	1,086	12,774	36	353	17	107	318	6,725	58	436	2,004	26,891
R4	472	7,644	1,207	11,586	32	377	2	36	283	4,838	96	477	2,092	24,958

年間利用率は、小数点第1位まで記入してください。(小数点第2位を四捨五入)

令和6年度部屋別利用件数・利用人数

部屋名	利用件数(件)	利用人数(人)	年間利用率(%)
研修室	606	4,636	41.7
作法室	377	3,289	23.1
調理実習室	28	166	5.0
視聴覚室	208	2,210	13.5
レクホール	867	15,284	60.6
合 計	2,086	25,585	
令和5年度・令和4年度それぞれの合計			
令和5年度	2004	26891	
令和4年度	2092	24958	

令和 6 年度桜台公民館 事業報告

1 運営方針

(1) 全体の運営方針

- ・単発だけでなく年間を通じて開催する講座を増やす
(昨年度から継続：デジタル講座（内容は変更するものもある）、新規予定：エンジョイ！スマイル倶楽部)
- ・生涯学習推進委員会でご指摘のあった調理実習室の利用を増やす
(再開：桜台キッチン、さくセンティーサロンほっとカフェ)
- ・夜間講座の再開（アフター 7 講座）

(2) 分野別方針

	運営目標
家庭教育 (1)	①多様な環境での子育てを支援し、子育てに対する意識を高める ②同世代の子ども同士、その保護者同士の出会いと交流の場と機会を提供する ③地域健全育成を図り、子育てによる閉塞感を緩和する
青少年教育 (2)	①異年齢、異学区の子ども同士や地域との交流を図り、社会性を養う ②想像力、創意工夫、生きる力をつけるための体験、学習、活動の機会を提供する ③自ら考え行動する青少年を地域で育成する
成人教育 (3)	①変化する社会に対応できる知識を学び、犯罪などから身を守るすべを提供する ②体を動かす楽しさを知り、運動機能の低下を防ぐ ③同じ趣味を持つ仲間づくりを支援する ④新しいことにチャレンジし、頭や体に刺激を与える
団体育成 (4)	①機能低下を予防し、仲間づくりを支援する ②新しくサークルを立ち上げることができるよう支援する

(3) 令和 6 年度 重点的に実施した項目（講座・事業など）

- ・年間をとおして市民の健康を促進する講座（エンジョイライフ倶楽部・ボッチャ協力・リフレッシュ倶楽部）
- ・食を通して交流する講座（桜台キッチン）
- ・地域活性の一助として、またコミュニケーションを通じて仲間づくりができるようなティーサロンの再開（さくセンティーサロンほっとカフェ）

2 桜台公民館講座実施報告

(1) 学習講座事業

対象	学習講座名	運営目標	回数	参加人数
家庭教育 (1)	子育てサロン（児童館合同）	①②③	3回	延べ25人
	赤ちゃん広場「いちご組」（児童館合同）	①②③	8回	57組115人
	湯浅先生のお話、聞いてみませんか？ （児童館合同）マカロニ工作（同伴の子）	①③	1回	(講演)20人 (工作)11人
青少年教育 (2)	学ぶKidsシリーズ（児童館合同）	①②	4回	延べ46人
	学ぶKids「さくセンウォーク」（青少年相談員・児童館合同）	①②③	1回	7人
	さくらだいクラブ～白井探検隊～（児童館合同）	①②③	2回	5人
	さくセンフェスタこどもボランティアに挑戦（児童館合同）	①③	1回	9人
	さくセンこども企画部（児童館合同）	②③	3回	11人
成人教育 (3)	デジタル講座	①④	8回	延べ47人
	大人のチャレンジ講座	③④	2回	延べ12人
	桜台キッチン	③④	1回	12人
	アフター7講座	②③④	2回	延べ19人
	さくセン歴史講座	②③	1回	8人
	白井歴史散策倶楽部～白井の魅力発見～	②③	2回	5人
	リフレッシュ倶楽部	②③④	1回	13人
団体育成 (4)	エンジョイ！スマイル倶楽部	①②	11回	10人

(2) 講座以外に行った事業

事業名	参加人数
・令和6年度さくセンフェスタ（利用団体の発表の場）	1451人
・地域イズム2024（地域交流イベント）	180人
・さくセンティーサロン ほっとカフェ	延べ94人
・もっとほっとルーム（中高生の居場所）	7人
・桜台センター利用者連絡会（総会）	9人
・さくセンフェスタ実行委員会	9人

※参加人数については、人数を把握している（およその人数を含む）場合のみ記載

(3) 情報の提供

【紙媒体】

- ・さくセン通信（桜台センター月刊情報紙）
- ・児童館だより（桜台児童館月刊情報チラシ）
- ・広報しろい（随時掲載依頼）
- ・ポスター、チラシなどの掲示と配布

【web】

- ・ホームページ
- ・ブログ
- ・SNS（Facebook、Instagram）

(4) 施設の提供

- ・貸館業務の充実（当日でも空いていれば利用可能）
- ・市の健診は休館日に行う
- ・期日前投票所
- ・YSB桜台&ハートの会協力（場所提供）
- ・ちば県立湖北特別支援学校保護者に駐車スペース提供

3 事業の評価

(1) 分野別方針

	評 価
家庭教育 (1)	児童館併設の複合施設であるということから、対象が被ることが多く、参加人数が少なかった。来年度は精査して企画を再考したい。 また「いちご組」参加者が1歳児～3歳児サークルへ移行していたが、ほぼ保護者が働きに出るため、サークル自体の参加者が減っている。 講座内容や開催日程、サークルサポートなど今までどおりとはいかない時期にきている。 家庭が多様化しているため講座内容はさらに精査しなくてはならない。
青少年教育 (2)	基本夏休みに開催する学ぶKidsシリーズは好評である。フェスタをメインとした企画部やボランティアも意欲的な子どもが集まり、手ごたえを感じている。
成人教育 (3)	デジタル講座は、コロナ時に高齢者が社会に取り残されないよう始めたスマホをメインとした年間講座を数年開催してきたが、そろそろ参加者も少なくなり、他センターでも開催していることから来年度は見合わせることにする。
団体育成 (4)	年間を通して、参加者を募集しつつサークル化を目指して開催した。 あと数回を残して、サークル化が決定したため、今後の活動のサポートをしていく予定である。

(2) 令和6年度重点的に実施した項目（講座・事業など）

評価
「エンジョイ！スマイル倶楽部」年間を通じて開催したのち、サークル化が決定した。 「さくセンチーサロンほっとカフェ」保健所の関係で、コロナ前に開催していた内容とは少し違ったが、徐々にカフェ目当てで集まってくださる方も増えてきた。また、サークル終了後のコミュニケーションの場としての利用も増えてきている。

講座・学習プログラム【家庭教育】

講座名	(児童館合同) 子育てサロンへママのための色を楽しむカラー講座プチパーソナルカラー診断へ				
対象	子育て中の市内在住保護者				
募集人数	8人	参加人数		7人	
事業の課題と目標	課題 ・自分の時間がとりにくい ・子どもが中心で自分のための時間がほしい ・ママが楽しめるようなリフレッシュできる時間を持つてほしい 目標 ・子育て中の保護者がひととき自分の時間を持ちリフレッシュする ・自分の意外な一面を知り前向きな気持ちになってもらおう				
学習期間	令和6年7月	学習場所	視聴覚室		
回数	1回	講師	認定NPO法人色彩生涯教育協会認定講師 高橋美子さん・番宏美さん		
学習内容	全員が自分の似合う色を講師に診断してもらい、自分が映える色やメイクの色を試してみる				
予算	支出総額：15,000円 内訳：講師料 15,000円 その他事業費 0円	決算		支出総額：15,590円 内訳：講師料 15,590円(源泉含) その他事業費 0円	
	参加者負担金：0円		参加者負担金：0円		
事業参加者への配慮等 ・託児あり（児童館スタッフが担当） ・保護者と離れられない子は同室も可（月齢に合わせた玩具などの用意） ・講座中はコミュニケーションが盛り上がるような声かけをする					
事業の成果（課題や目標に対して） ・参加者同士の第一印象やイメージを伝えあう時間ではとても盛り上がりつつあった ・託児を依頼した保護者からは「初めて子どもと離れて過ごしたが子どもにとっても貴重な体験だった」と話していた					
備考	・				

講座・学習プログラム【家庭教育】

講座名	(児童館合同) 子育てサロン～はじめてでもかわいくできるプチ多肉寄せ植え～				
対象	子育て中の市内在住保護者				
募集人数	8人	参加人数		5人	
事業の課題と目標	・子育て中に緑を楽しむ余裕がない ・子どもが小さいと花を飾ることがためらわれる				
学習期間	令和6年12月	学習場所		研修室	
回数	1回	講師	市民		
学習内容	机の上や窓辺に飾ることができる小さな多肉植物の寄せ植えをクリスマス仕様で作る				
予算	支出総額：10,000円 内訳：講師料 5,000円 その他事業費 5,000円	決算		支出総額：7,278円 内訳：講師料 5,568円（源泉等含） その他事業費 1,710円	
	参加者負担金：500円		参加者負担金：500円		
	事業参加者への配慮等				
・託児あり（児童館スタッフが担当） ・保護者と離れない子は同室も可（月齢に合わせた玩具などの用意）					
事業の成果（課題や目標に対して）					
・少しの時間でも緑を楽しむことができた ・独創的な作品を作り上げることができた ・制作中もおしゃべりを楽しみ交流をすることですりラックスした時間を持てたようだ					
備考					

講座・学習プログラム【家庭教育】

講座名	(市民活動支援課・児童館合同) 子育てサロンへあげあげ↑↑子育てトーク＆ピザづくりへ			
対象	子育て中の市内在住保護者とその参加者の子（幼児のピザ作りには同伴者が必要）			
募集人数	トーク 15 人、ピザ作りの子 8 人	参加人数	トーク 5 人（同室の子 2 人） ピザ作りの子 8 人	
事業の課題と目標				
課題	・子育て中は様々な不満が溜まりやすい ・子どもに料理を経験させたいが片付けが大変で家庭内ではキッチンに触らせないケースが多いとよく聞く			
目標	・ペアップトークを通して子育てにモチベーションが上がる言葉を知る ・子どもに料理を作ってもらい保護者と一緒に食べる時間を提供する			
学習期間	令和 7 年 2 月	学習場所	視聴覚室、研修室、調理実習室	
回数	1 回	講師	日本ペップトーク普及協会認定講師：西山崇子さん 管理栄養士：高城久美子さん	
学習内容	ママがペアップトークを学んでいる間に、子どもたちがママにピザを作り、一緒に食べる。			
予算	支出総額：20,000 円 内訳：講師料 15,000 円 その他事業費 5,000 円	決算	支出総額：1,000 円 内訳：講師料 市の負担 その他事業費 1,000 円	
	参加者負担金：500 円		参加者負担金：500 円	
事業参加者への配慮等				
・ペアップトークは話やすいようにお茶会形式で行う ・保護者から離れられない子は同室で対応する ・背の低い子どもにあわせた調理場を設定する				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・ペアップトークに参加した保護者は子どもの良い所や家族でいることの幸せを再確認することができたようだ ・子どもたちはそれぞれ思いついたピザ生地を成型して保護者にその意図を話しながら楽しくピザを食べた ・子どもは達成感を保護者は家族の良さを見直し互いに充実した時間が持てたようだった				
備考				

講座・学習プログラム【家庭教育】

講座名	(児童館合同) 0歳児赤ちゃん広場「いちご組」			
対象	市内在住のR5年4月2日～R6年4月1日生まれの子とその保護者			
募集人数	15組	参加人数	57組 115人	
事業の課題と目標				
課題	・家族形態が多様化し、子育ての悩みも多様化している			
目標	・日本語が苦手な外国の人が増えている			
親子のふれあいを通してコミュニケーションを図り、遊びの大切さや楽しさを経験しながら子育てに対する意識を高める。				
・親同士が情報交換する中で交流を深め、仲間作りができるようにする。				
学習期間	R6年5月～R7年2月	学習場所	視聴覚室、作法室	
回数	8回	講師	児童厚生員、歯科衛生士、保健師 公民館利用団体の講師金子雅予さん・佐々木優子さん	
学習内容	①5/9 計測・足型 ③7/12 子連れヨガ ⑤10/3 育児相談 ⑦12/13 お茶会	②6/13 栄養相談 ④9/13 子連れヨガ ⑥11/14 歯科相談 ⑧2/14 親子ピクス		
予算	支出総額：30,000円 内訳：講師料 20,000円 その他事業費 10,000円	決算	支出総額：30,000円 内訳：講師料 20,000円 その他事業費 10,000円	
	参加者負担金：0円		参加者負担金：0円	
	事業参加者への配慮等			
・子ども体調に柔軟に対応し保護者の負担にならないよう気軽な参加を促した				
・保護者同士が交流しやすいように継続した参加を促した				
・人前では言いにくい個人的な悩みも講師などに相談できるような時間を設けた				
事業の成果(課題や目標に対して)				
・なるべく明るく対応し子どもの体調不良で欠席の場合は近況などを聞くように心がけた				
・交流を促すためスタッフが子どもたちの話題を通して保護者に呼びかけることができた				
・悩みを打ち明けられることができて心が軽くなったといった声があった				
備考				
・参加人数内訳 ①5組 10人／②5組 10人／③6組 12人／④7組 14人／⑤8組 17人／⑥11組 22人／⑦7組 14人／⑧8組 16人 計57組 115人				

講座・学習プログラム【家庭教育】

講座名	(児童館合同) 湯浅先生のお話、きいてみませんか？				
対象	講話：一般	工作：市内在住同伴の子			
募集人数	講話 30人 市内在住の同伴の子 8人	参加人数		講演：20人	工作：子 11人
事業の課題と目標					
課題					
目標	・障がい児の保護者や兄弟が悩みを打ち明けられる場やコミュニケーションがとれる場がない ・孤立してしまうことが多い ・子育ての悩みや発達の心配などを気軽に専門家に聞いて不安解消の一助とする ・コミュニティの形成を促していく				
学習期間	令和6年6月		学習場所	研修室	
回数	1回	講師	講話：湯浅正太医師	工作：山崎真紀さん	
学習内容	子育て中の保護者、障がいのある子やその家族、子どもの発達に心配のある人ばかりいろんな人と悩みや情報を共有する				
予算	支出総額：10,000円 内訳：講師料 10,000円 その他事業費 0円		決算	支出総額：10,023円 内訳：講師料 10,023円 その他事業費 0円	
	参加者負担金：500円			参加者負担金：500円	
	事業参加者への配慮等				
・保護者が講師の話聞く際は障がい児が安心して過ごせるように同室で工作を楽しむように設定する ・多くのボランティアを募り子どもたちの見守りや講話に集中できる場作りを心掛けた					
事業の成果（課題や目標に対して）					
・子どもたちは楽しんで工作に取り組んでいた ・保護者達は積極的に講師に質問を投げかけて悩みを会場で共有することができた ・本講座をおとして桜台を中心としたコミュニティの繋がりを持てた参加者もいたようだ					
備考	・この講座は、センター利用者の「こういうことがやりたい」をセンターが全面的にサポートして開催した講座である。				

講座・学習プログラム【青少年教育】

講座名	【1】学ぶ Kids「防災についてくわしくなろう」（児童館合同）				
対象	市内小学4年生以上				
募集人数	16人	参加人数		7人	
事業の課題と目標					
課題	・日常で防災について考えることが少ない				
目標	・経験している子は少ない				
	・災害時に備え防災の大切さについてくわしく学ぶ				
	・炊事体験の実習を通して災害への取組の関心を高める				
学習期間	7月	学習場所	調理室		
回数	1回	講師	京葉ガス株式会社 斉藤翔平氏	上條美智子氏	
学習内容	災害時に備え防災の知識を学び、ライフラインが使用できない状況想定の中、炊事体験をする。				
予算	支出総額：30,000円（全3回） 内訳：講師料 0円 その他事業費 30,000円		決算		支出総額：0円 内訳：講師料 0円 その他事業費 0円
	参加者負担金：0円		参加者負担金：0円		
	事業参加者への配慮等				
	・災害時にはどのようなことが起こりえるのか学ぶ				
	・当たり前に使用しているライフラインについて考える				
	・クイズ形式などで子ども達の関心を引く				
事業の成果（課題や目標に対して）					
	・料理をのせるお皿を手作りして新鮮な体験となったようだ				
	・実際に限られた状況の中で食事をする機会は初体験だったようで楽しんで参加していた				
備考					

講座・学習プログラム【青少年教育】

講座名	【2】学ぶ Kids「フォトフレームをデコッチやおう！」（児童館合同）			
対象	市内小学1年生以上			
募集人数	8人		参加人数	6人
事業の課題と目標				
課題	自由なものづくりにする機会が少ない			
目標	異学年交流するきっかけが少ない			
	フォトフレーム作りを通して創造性や操作性を育む。			
	好きな色のタイルを選び、工夫して作り上げる工程を楽しむ。			
学習期間	8月		学習場所	研修室
回数	1回		講師	
学習内容	好みの色や形のタイルを選び、デザインを考える。ボンドでタイルを貼りオリジナルフォトフレームを作る。			
予算	支出総額：30,000円（全3回） 内訳：講師料 0円 その他事業費 30,000円		決算	支出総額：1,430円 内訳：講師料 0円 その他事業費 1,430円
	参加者負担金：300円			参加者負担金：300円
	事業参加者への配慮等			
・低学年でも扱いやすいタイトルも併せて用意した				
・タイトルを貼りつけてボンドが乾くまでの時間はフレームの中に入れるイラストを制作する時間にした				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・それぞれの感性が活かされた内容になったようだった				
・基本的な作業はシンプルにして自分で創作図を考える時間を多くとることができた				
・楽しんで作業する姿が見受けられた				
備考				

講座・学習プログラム【青少年教育】

講座名	【3】学ぶ Kids「①色とあそぼう」（児童館合同）			
対象	市内小学3～6年生			
募集人数	16人		参加人数	17人
事業の課題と目標				
課題	・理科に興味を持つ子どもが少なくなってきた			
目標	・学校外で学ぶ場が少ない			
	・身近なものを使った実験を通して理科への興味関心を高める			
	・学校では行わない実験や内容に触れることで新しい観点を取り入れ探求心を養う			
学習期間	8月		学習場所	研修室
回数	1回	講師	一般社団法人ディレクトフォース	
学習内容	3原色を混合して色々な色を作り、さらに色ごとの3原色の混合で出来ているか調べる。色を分離する方法を体験する。			
予算	支出総額：30,000円（全3回） 内訳：講師料 10,023円 その他事業費 19,977円		決算	支出総額：12,213円 内訳：講師料 10,023円 その他事業費 2,190円
	参加者負担金：0円			参加者負担金：0円
	事業参加者への配慮等			
・身近な色に対する理解を深めて自然科学の面白さを体験できるようにする				
・小グループに分かれて友達と驚きを共感して記録できるようにする				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・三原色の組み合わせによって無限に色ができることに子どもたちは驚いていたようだった				
・実際にスボイトで色の液体を組み合わせた分離させたりすることによって楽しく学ぶことができたようだ				
・質問も多くて夏休みのよい思い出になる機会となった				
備考				
・				
・				

講座・学習プログラム【青少年教育】

講座名	【4】 学ぶ Kids 「②風で電気を起こそう」 (児童館合同)			
対象	市内小学 3～6 年生			
募集人数	16 人	参加人数	16 人	
事業の課題と目標				
課題	・理科に興味を持つ子どもが少なくなってきた			
目標	・学校外で学ぶ場が少ない			
	・身近なものを使った実験を通して理科への興味関心を高める			
	・学校では行わない実験や内容に触れることで新しい観点を取り入れ探求心を養う			
学習期間	8 月	学習場所	研修室	
回数	1 回	講師	一般社団法人ディスプレイクトフォース	
学習内容	型紙から風車を作り、モーターをつけて風車発電機を作る。発電した電気でランプと扇風機を動かして、発熱量を測定する。			
予算	支出総額：30,000 円 (全 3 回) 内訳：講師料 10,023 円 その他事業費 19,977 円	決算	支出総額：12,213 円 内訳：講師料 10,023 円 その他事業費 2,190 円	
	参加者負担金：0 円	参加者負担金：0 円		
事業参加者への配慮等				
	・みんなで考える時間を設ける			
	・小グループで友達と協力しながら風車を作る			
	・1 人 1 人に気を配り子どもたちの学習の様子を見守る			
事業の成果 (課題や目標に対して)				
	・日本の電気は何で作られているのかなど普段は持たない視点が新鮮だったようだ			
	・動力を上げるには？など工夫を凝らしてパワーアップさせる方法なども学べた			
	・ライトを点滅してみたり直観的にわかりやすい形で風力発電の仕組みを学ぶことができた			
備考				

講座・学習プログラム【青少年教育】

講座名	学ぶ Kids 「さくセンウォーク」 (青少年相談員・児童館合同)				
対象	市内小学 4 年生以上				
募集人数	15 人	参加人数	7 人		
事業の課題と目標					
課題					
・運動や体を動かす機会が減ってきている					
・気力が無く何に対しても「つまらない」といった口癖の子ども達をよく見受ける					
・暮らしている地域について興味が湧かない					
目標					
・長距離を歩き皆で完歩を目指す					
・協力し合って達成する喜びを知る					
・防災に活かせる知識を学ぶ					
学習期間	10 月	学習場所		北総花の丘公園・研修室	
回数	1 回	講師			
学習内容					
センターから桜台地区を通って印西市花の丘公園をウォーキングする。災害時に役立つ火おこしや調理体験、ロープの結び方、テント張りなどを体験する。					
予算	支出総額：40,000 円 その他事業費 40,000 円		決算	支出総額：42,180 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 42,180 円	
	参加者負担金：0 円			参加者負担金：0 円	
	事業参加者への配慮等				
・ウォーキングや学習だけではなく体験を組み合わせて子どもたちに興味をもってもらう					
・学んだことや達成感を感想文に残し後日文集にして配布することで思い出とともに地域を大切にすることを養う					
事業の成果 (課題や目標に対して)					
・青少年相談員からロープの結び方や火おこしを教わって自分でもやりたいと積極性が出てきたようだった					
・普段接しない友達と会話をすることで自発的に役割分担を決めてテント張りや調理に取り組んでいた					
備考					
・					
・					

講座・学習プログラム【青少年教育】

講 座 名	【1】 さくらだいいくらぶ～白井探検隊～「クラブトバンドで小物入れ作り」(児童館 合同)			
対 象	市内小学 4 年生以上			
募集人数	8 人	参加人数		5 人
事業の課題と目標				
課 題				
目 標	・自由にもものづくりする機会が少ない ・同じ地域の方や異学年交流するきっかけが少ない ・自分たちが暮らしている白井について興味を持ち学習するきっかけをつくる ・様々な体験を通して地域交流や異学年交流の場とする			
学習期間	12 月	学習場所	研修室	
回 数	1 回	講 師	立川理恵氏	
学習内容	クラブトバンドで小物入れづくりをする。			
予 算	支出総額：23,000 円 (全 2 回) 内訳：講師料 5,669 円 その他事業費 17,331 円		決 算	支出総額：5,669 円 内訳：講師料 5,669 円 その他事業費 0 円
	参加者負担金：500 円		参加者負担金：500 円	
事業参加者への配慮等				
・地域の方から講師として子どもたちにものづくりを教えてもらう ・子ども一人ひとりに気を配る				
事業の成果 (課題や目標に対して)				
・クラブトバンドを交互に組み合わせる工程は講師のアドバイスの沿ってスムーズにこなせていたようだった ・友達と意見を交わしながら制作する姿が見受けられた				
備 考				
・				
・				
・				

講座・学習プログラム【青少年教育】

講 座 名	【2】 さくらだいいくらぶ～白井探検隊～「ピザ作り」（児童館合同）			
対 象	市内小学 4 年生以上			
募集人数	8 人	参加人数	5 人	
事業の課題と目標	課題 ・ 自由にもものづくりする機会が少ない ・ 同じ地域の方や異学年交流するきっかけが少ない 目標 ・ 自分たちが暮らしている白井について興味を持ち学習するきっかけをつくる ・ 様々な体験を通して地域交流や異学年交流の場とする			
学習期間	12 月	学習場所	調理室	
回 数	1 回	講 師	高城久美子氏	
学習内容	クラブ トバンドで小物入れづくりをする。			
予 算	支出総額：23,000 円（全 2 回） 内訳：講師料 5,669 円 その他事業費 17,331 円	決 算	支出総額：5,669 円 内訳：講師料 5,669 円 その他事業費 0 円	
	参加者負担金：500 円		参加者負担金：500 円	
事業参加者への配慮等				
・ 地域の方から講師として子どもたちにもものづくりを教えてもらう				
・ 子ども一人ひとりに気を配り怪我のないように注意する				
・ 異学年交流ができるグループ分けをする				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・ 高学年が中学年の子を手助けしながら作業をする様子が見受けられた				
・ 地域の野菜の紹介を講師にもらったため食に関して興味を持ったようだった				
・ 生地をこねる工程が難しかったようだが楽しんで取り組んでいた				
備 考				
・				
・				
・				

講座・学習プログラム【青少年教育】

講 座 名	さくせんフェスタ子どもボランティアに挑戦（児童館合同）				
対 象	市内小学				
募集人数	10 人	参加人数		9 人	
事業の課題と目標					
課 題	・ イベントの企画側として参加する機会が少ない				
目 標	・ 異学年交流するきっかけが少ない				
	・ 子ども達が自ら考え、行動していく過程を楽しむ				
	・ 指導員、異学年との交流を深める				
学習期間	3 月	学習場所		小学生ルーム	
回 数	1 回	講 師			
学習内容	さくせんフェスタで子どもが楽しむブースを運営する。				
予 算	支出総額： 0 円（全 2 回） 内訳：講師料 0 円 その他事業費 0 円		決 算		支出総額：0 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 0 円
	参加者負担金：0 円		参加者負担金： 0 円		
事業参加者への配慮等					
・ 怪我のないよう運営するための配慮を行う					
・ 当日指導員に相談する時間を設ける					
事業の成果（課題や目標に対して）					
・ さくせんフェスタでは「射的」やその他誘導などを分担して行った					
・ 子ども達が自ら運営に参加していた姿が校長先生や保護者に好評だった					
・ 人のために企画、運営を行う気持ちや達成感を感じられたようだった					
備考					
・					
・					

講座・学習プログラム【青少年教育】

講座名	さくせんこども企画部（児童館合同）			
対象	市内小学			
募集人数	5 人	参加人数	11 人	
事業の課題と目標				
課題	・イベントの企画側として参加する機会が少ない			
目標	・異学年交流するきっかけが少ない			
学習内容	・子ども達が自ら考え、作り、形にしていっていく過程を楽しむ			
指導員、異学年との交流を深める				
学習期間	12 月	学習場所	小学生・中学生ルーム	
回数	3 回	講師		
学習内容	さくせんフェスタで子どもが楽しめる企画を考えて運営する。			
予算	支出総額： 0 円（全 2 回） 内訳：講師料 0 円 その他事業費 0 円		決算	支出総額：0 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 0 円
	参加者負担金：500 円			参加者負担金：500 円
事業参加者への配慮等				
過去の事例を紹介した後は子ども達だけでアイデア出しから話し合ってもら				
準備の過程で無理なく実現できるよう子どもたちが指導員に相談する時間を設ける				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・さくせん通信や児童館内で告知し小学 5 年生 5 名からの募集があった				
・さくせんフェスタでは「射的」を企画することになった				
・当日はボランティアの人と一緒に運営をしてとても好評だった				
・人のために企画、運営を行う気持ちや達成感を感じられたようだった				
備考				
・3 回実施の参加数内訳（1 回目 5 人／2 回目 3 人／3 回目 3 人）				

．講座・学習プログラム【成人教育】

講座名	デジタル講座「スマホの基本とLINE体験」		
対象	概ね 60 才以上の市民		
募集人数	15 人	参加人数	22 人
事業の課題と目標	事業の課題 ・高齢者はデジタル機器に苦手意識を持っている方が多い ・社会では LINE で繋がることなく公共の公式のアプリも増えているが使いが 目 ・スマホを私しよくし繋がる楽しさや情報を得る便利さを体験してもらう ・実生活に役立てられるようにする		
学習期間	4 月～10 月	学習場所	視聴覚室
回数	4 回	講師	ソフトバンク公認スマホアドバイザー
学習内容	スマホに抵抗感のある方や苦手意識のある方向けに、スマホの基礎操作と LINE の体験を行う。		
予算	支出総額：5,000 円（全 8 回） 内訳：講師料 0 円 その他事業費 5,000 円	決算	支出総額：0 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 0 円
	参加者負担金：0 円		参加者負担金：0 円
	事業参加者への配慮等 ・理解しやすいようプロジェクターを使用した講義 ・内容に追いつけない参加者の取りこぼしがないように 1 人 1 人に気を配る ・参加者が高齢者のため足元が冷えないよう視聴覚室に専用のスリッパを用意		
事業の成果（課題や目標に対して）	・メッセージのやり取りを専用機で体験してみて楽しく学べたようだった ・スマホ操作の基本の復習から始まったのもっと LINE の時間を多くとったほうが良さ うだった		
備考	・ ・		

講座・学習プログラム【成人教育】

講座名	デジタル講座「はじめてのスマホ体験」		
対象	概ね 60 才以上の市民		
募集人数	15 人	参加人数	13 人
事業の課題と目標	事業の課題 ・高齢者はデジタル機器に苦手意識を持っている方が多い ・社会ではスマホネット使用前提が多く公共の公式のアプリも増えているが使いが い ・スマホを持っているが使い方を質問できる場所がない 目 ・苦手意識を私しよくし繋がる楽しさや情報を得る便利さを体験してもらう ・実生活に役立てられるようにする ・コミュニケーションツールとしての活用法を知る		
学習期間	5 月～11 月	学習場所	視聴覚室
回数	2 回	講師	ソフトバンク公認スマホアドバイザー
学習内容	スマホに抵抗感のある方や苦手意識のある方向けに、スマホの基礎操作を時間をかけて学習する。		
予算	支出総額：5,000 円（全 8 回） 内訳：講師料 0 円 その他事業費 5,000 円	決算	支出総額：0 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 0 円
	参加者負担金：0 円		参加者負担金：0 円
	事業参加者への配慮等 ・理解しやすいようプロジェクターを使用した講義 ・内容に追いつけない参加者の取りこぼしがないように 1 人 1 人に気を配る ・参加者が高齢者のため足元が冷えないよう視聴覚室に専用のスリッパを用意		
事業の成果（課題や目標に対して）	・普段家族には遠慮して聞けないと言っていた人には個別の質疑応答の時間があって良かった ようだった ・シニアが対象の講座で参加者も安心して応募できたようだった		
備考	・ ・		

講座・学習プログラム【成人教育】

講座名	デジタル講座「始めよう！災害の備え」			
対象	概ね 60 才以上の市民			
募集人数	15 人	参加人数		6 人
事業の課題と目標				
課題	・わかってはいても災害に対する危機管理が低め			
目標	・家族が身近にいない高齢者の有事の際の孤立する可能性がある			
学習期間	7 月	学習場所	視聴覚室	
回数	1 回	講師	ソフトバンク公認スマホアドバイザー	
学習内容	防災アプリを使った、情報収集と防災対策。			
予算	支出総額：5,000 円（全 8 回） 内訳：講師料 0 円 その他事業費 5,000 円		決算	支出総額：0 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 0 円
	参加者負担金：0 円		参加者負担金：0 円	
事業参加者への配慮等				
・自分毎として捉えられるように身近な対策から伝える				
・自分のスマホを使用して実践してみる				
・様々な可能性について考えて考える時間を設ける				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・難しい内容かと思っていたが理解しやすい簡単で実践しやすい内容になったようだ				
・補佐の方が回遊していて操作がわからなくなったときに質問がしやすい環境だった				
・家族との連絡がとれないときの対策に参加者は興味を持っていた				
備考				
・				
・				

講座・学習プログラム【成人教育】

講 座 名	デジタル講座「スマホの基礎とキャッシュレス体験」			
対 象	概ね 60 才以上の市民			
募集人数	15 人	参加人数	6 人	
事業の課題と目標	課題 ・高齢者はデジタル機器に苦手意識を持っている方が多い ・キャッシュレスの場が多くなっている中高齢者が取り残されている傾向にある 目標 ・スマホを持っているが使い方を質問できる場所がない ・苦手意識を払しょくし便利さを体験してもらう ・実生活に役立てられるようにする			
学習期間	12 月	学習場所	視聴覚室	
回 数	1 回	講 師	ソフトバンク公認スマホアドバイザー	
学習内容	キャッシュレス決済を便利にスムーズに使う方法を学習する。			
予 算	支出総額：5,000 円（全 8 回） 内訳：講師料 0 円 その他事業費 5,000 円		決 算	支出総額：0 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 0 円
	参加者負担金：0 円		参加者負担金：0 円	
事業参加者への配慮等				
・スマホの基礎と抱き合わせで開催することによって参加しやすさを PR した ・専門用語をあまり使用せず高齢者でもわかりやすい言い回しを心がける ・メリットとデメリットの両側面を説明し安心して聞いてもらえるようにする				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・キャッシュレスに抵抗感や難しさを感じていたことが解消されたようだった ・アプリのダウンロードから説明されていて実践できそうだったといった声があった				
備 考				

講座・学習プログラム【成人教育】

講座名	大人のチャレンジ講座『写経体験会 in 延命寺』		
対象	市民		
募集人数	8人	参加人数	12人
事業の課題と目標	事業の課題 ・ 大人対象の書道教室が近隣でない ・ 平塚延命寺にて開催される写経本堂開放にあまり人がこない ・ 地域での寺の役割や意義が変化してきている 目標 ・ 初心者でも経験者でも誰でも手軽に写経へ参加できる講座にする ・ 写経本堂開放に参加者を繋げる ・ 地域の方にもっと寺を身近に感じてもらいたい		
学習期間	5月～10月	学習場所	平塚延命寺
回数	2回	講師	稲葉正秀住職
学習内容	延命寺本堂で住職の法話を聞いた後、写経を体験する。本堂で毎月行われている写経開放の場に参加者を繋げる。		
予算	支出総額：30,000円 内訳：講師料 0円 その他事業費 30,000円	決算 支出総額：2,895円 内訳：講師料 0円 その他事業費 2,895円	参加者負担金：0円
事業参加者への配慮等	・ 写経は取り組み環境が重要なため延命寺に開催とした ・ 写経のため本堂開放をしていることを周知するお知らせを配布した ・ 寺を身近に感じてもらうために住職からの法話をお願いした		
事業の成果（課題や目標に対して）	・ 非日常的な空間で参加者は集中して写経に取り組めたようだった ・ 講座の後に写経本堂開放について質問があり参加したいといった声があった ・ 住職の仏教に基づいた話が人生観の参考になったようで参加者と寺との距離を縮められたようだった		
備考	・ ・		

講座・学習プログラム【成人教育】

講座名	桜台キッチン～夏こそエスニック！うま辛タイ料理～		
対象	市民		
募集人数	12人	参加人数	12人
事業の課題と目標	事業の課題 ・ 日々の食事レパトリーがマンネリ化してしまう ・ 夏は食欲が衰退する 目標 ・ 異国料理もレパトリーのひとつとする ・ 様々なスパイスを知り料理に日々の献立に活かす		
学習期間	7月	学習場所	調理室
回数	1回	講師	栄養士・フードスペシャリスト菅野真優氏
学習内容	異国文化の食文化を学び、家庭料理のレパトリーを増やす。		
予算	支出総額：30,000円 内訳：講師料 10,023円 その他事業費 19,977円	決算 支出総額：11,842円 内訳：講師料 10,023円 その他事業費 1,819円	参加者負担金：1,500円
事業参加者への配慮等	・ 1人に作業が集中しないようにする ・ 怪我のないよう注意する ・ 食事の際に話が弾むような雰囲気づくり		
事業の成果（課題や目標に対して）	・ 知らない食文化を体験できて新鮮だったようだ ・ 手軽に作れそうなレシピだったので日常に取り入れたといった声があった ・ 時間内に作る料理の種類が多く戸惑っている様子だった		
備考	・ ・		

講座・学習プログラム【成人教育】

講座名	アフター7講座「自宅のできるリンパ講座」			
対 象	市民			
募集人数	10 人		参加人数	19 人
事業の課題と目標				
課 題	・自身の体の不調に悩んでいる人が多い ・悩みを打ち明けられる場を求める人が多い ・セルフケアを無理なく日常に取り入れる概念を持ってもらいたい			
目 標	・セルフケアを取り入れて健康促進の学びの場にする ・小さな悩みを気軽に相談できる場にする			
学習期間	11 月	学習場所		視聴覚室
回 数	2 回	講 師	リンパセラピー®アドバイザー 東牧佳子氏	
学習内容	全身のリンパの流れを学び、実際に自身の手でリンパを流す方法を体験する。(首肩編・足腰編)			
予 算	支出総額： 30,000 円 内訳：講師料 10,023 円 その他事業費 19,977 円	決 算	支出総額：10,023 円 内訳：講師料 10,023 円 その他事業費 0 円	
	参加者負担金：0 円		参加者負担金：0 円	
事業参加者への配慮等				
・専門用語が少なめの解説 ・講義や実践の他に個別に質疑応答のできる時間の設定 ・話しやすい座席の配置など和やかな雰囲気をはがける				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・参加者は理解しやすく丁寧な講義だと感じているようだった ・慢性的な冷え性や凝りや痛みなどについて共有している時間が楽しそうだった ・参加者は女性がほとんどだったが男性も参加しやすくてほしいといった意見があった				
備 考				
・				
・				

講座・学習プログラム【成人教育】

講座名	さくせん歴史講座 近世城下町の祭礼～江戸天下祭と佐倉城下麻賀多明神祭礼を素材に～			
対象	市民			
募集人数	15人	参加人数		8人
事業の課題と目標	課題 ・文書館の存在を知らない人がほとんど ・歴史好きな利用者が図書館をよく利用している ・歴史を通して千葉県の歴史に興味を持ってもらう 目標 ・千葉県文書館を知るきっかけを作る ・幅広い参加者を募るようにする			
学習期間	11月	学習場所		視聴覚室
回数	1回	講師	千葉県文書館 白谷茉莉氏	
学習内容	江戸と佐倉の祭礼を中心に文書館の史料を参考にしながら歴史を学ぶ。			
予算	支出総額：0円 内訳：講師料 0円 その他事業費 0円		支出総額：0円 内訳：講師料 0円 その他事業費 0円	
	決算		算	
	参加者負担金：0円		参加者負担金：0円	
事業参加者への配慮等				
・講義の前に文書館の紹介資料を配布して説明してもらった ・公民館以外の場所にお知らせの掲示や配布を行った ・自由に資料を見られる時間を設けた				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・文書館では古文書の復元なども行っているのと知り参加者は興味を持っていた ・配布資料の他に地域の祭りの広報資料などを参加者は熱心に読み込んでいた ・図書室の利用者や利用団体の方が初めて公民会主催の講座に参加していた				
備考				
・				
・				

講座・学習プログラム【成人教育】

講 座 名	白井市歴史散策倶楽部～白井市の魅力発見～			
対 象	市民			
募集人数	10 人	参加人数	5 人	
事業の課題と目標				
課 題	・身近な地域の歴史を知らない ・郷土愛が希薄 ・地域との繋がりがよりも個を大切にする考え方が優位			
目 標	・白井市の歴史を通して地域に興味を持ってもらう ・散策を通して歴史を実感してもらう ・地域の特性を知って愛着を持ってもらう			
学習期間	12 月	学習場所	視聴覚室・散策西白井	
回 数	2 回	講 師	白井市教育委員会文化班	戸谷敦司氏
学習内容	市にまつわる歴史を学び、西白井駅周辺の文化財を巡る。			
予 算	支出総額： 5,000 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 5,000 円	決 算	支出総額：0 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 0 円	
	参加者負担金：0 円		参加者負担金：0 円	
	事業参加者への配慮等			
・視覚的に見やすい資料の提供 ・参加者の居住区の歴史話を取り入れた講義 ・交流を促進する散策では事故のないに留意する				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・普段利用している地区の文化財に触れることができ参加者は感動していたようだった ・地域の歴史をこれからも大切にしたいという意見があった ・参加者同士や講師と地域の神主との会話が聞けて参加者の満足度は高かった				
備 考				
・様々な散策リクエストがこれまで多くあったが桜台地区の歴史を再度講師と検討させていた だきたい				

講座・学習プログラム【成人教育】

講座名	リフレッシュ倶楽部「ゆるっとストレッチ」			
対象	市民			
募集人数	15 人	参加人数	13 人	
事業の課題と目標				
課題	・運動不足やそれをどう解消していくかわからない人が多い ・気軽に体を動かす講座のリクエストが多数ある ・一方で運動系のサークルではメンバーが不足している			
目標	・運動不足の解消法を学び体験する ・気軽に楽しく体を動かす場を提供する ・運動サークルへ加入の促進			
学習期間	12 月	学習場所	レクホール	
回数	1 回	講師	AFAA JAPAN 認定講師 佐々木優子氏	
学習内容	楽しいリズムで体を動かして、体と気持ちをリフレッシュする。筋力アップを促進する。			
予算	支出総額： 30,000 円 内訳：講師料 10,023 円 その他事業費 19,977 円	決算	支出総額： 10,023 円 内訳：講師料 10,023 円 その他事業費 0 円	
	参加者負担金： 0 円	参加者負担金： 0 円		
事業参加者への配慮等				
・誰でも気軽に参加できることをPRする ・運動系のサークルメンバーが募集されていることをお知らせする				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・参加者の年齢幅が 30 代～70 代と広がった ・ゆるいストレッチ運動から軽い汗をかくぐぐらの運動までを取り入れることができた ・体を動かして健康促進をする講座を希望する声が多数あった				
備考				

講座・学習プログラム【団体育成】

講 座 名	エンジョイ！スマイル倶楽部			
対 象	概ね 60 才以上の市民			
募集人数	10 人	参加人数	10 人	
事業の課題と目標				
・ コミュニケーションを重視した高齢者の定期的な活動の場が少ない				
・ 高齢者は多いが高齢者のサークルが少ない				
目 標				
・ 健康面と生きがいとコミュニケーションを促進する				
・ サークルを立ち上げる				
学習期間	4 月～3 月（8 月を除く）	学習場所	視聴覚室	
回 数	11 回	講 師	市内市民活動団体 スマイルライフ倶楽部	
学習内容	脳トレ・軽い体操・交流を通してサークルを立ち上げる。			
予 算	支出総額：5,000 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 5,000 円	決 算	支出総額：3,341 円 内訳：講師料 0 円 その他事業費 3,341 円	
	参加者負担金：300 円（初回のみ）	参加者負担金：300 円（初回のみ）		
	事業参加者への配慮等			
・初めは参加するだけといったスタンスから徐々に皆で活動が続けていきたいと思えるようにコミュニケーションの場を重視した内容にする				
・活動ルーティンの他に様々な思い出が残るようなイベントを定期的に取り入れる				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・交流を通して前向きな気持ちになることができたようだった				
・ラジオ体操や認知症予防のテキストを買って脳トレを日々するようになった				
・「スマイルさくら」として来年度からサークル活動が始まる予定				
備 考				

事業活動

事業名	令和6年度さくせんフェスタ			
対象	誰でも			
参加人数	来場者：1,451人	参加団体：24団体		
事業の課題と目標				
課題	- 迷惑駐車防止 - 前日準備と当日撤去の人手不足			
目標	- 準備と片付けがスムーズに行われるよう事前の準備を計画する - 事故のないように開催する			
期間	3月	回数	1回	
場所	桜台センター敷地内すべて（図書室は通常通り）			
事業内容	利用団体、地域団体の発表の場 （発表、体験、販売、展示、キッチンカー、子ども向けゲーム、工作ほか）			
事業参加者への配慮等				
- 混雑が予想される時間帯は館内放送を充実させ来場者の分散を計る - 館内放送で迷惑駐車をしないよう呼びかけをする - 参加団体で迷惑駐車抑止のための係を決める - ケガのないように呼びかける - 忘れ物や落とし物がないよう声掛けする				
事業の成果（課題や目標に対して）				
- 準備は参加団体の年齢層なども考慮し無理のない振り分けができた - 一部大型の物の移動のお手伝いが不足気味だった - 当日は事故なく開催できた - 忘れ物や落とし物が少なかった - 参加団体は趣向を凝らして参加していた - 公民館企画のビンゴ大会は人が開催部屋の収容人数を大幅に上回ってしまった - ビンゴ大会の次の開催は内容を考えた方がよい - 当日児童館の企画にボランティアに来た子ども達も9人ほどいてとても助かった				
備考				
来年度は桜台小学校改修工事のため駐車場が借りられないため参加団体に影響する可能性あり				

事業活動

事業名	地域交流イベント「地域イズム 2024」		
対象	誰でも		
参加人数	来場者 180 人		
事業の課題と目標	事業の課題 ・地域交流できる場が少ない ・地域で何かをしたいという思いに応えられない場や機会が少ない 目標 ・準備と片付けがスムーズに行われるよう事前の準備を計画する ・事故のないように開催する		
期間	11 月	回数	1 回
場所	桜台センター前駐車場、1 階市民ホール、2 階公民館		
事業内容	フリーマーケットやハンドメイドの販売、マルシェ、子ども向けレク、児童書読渡会、読み聞かせ、工作、キッチンカー 地元の焼き菓子ほか販売 (児童館・図書室は通常通り)		
事業参加者への配慮等	・異学年交流や地域交流ができるよう告知範囲を広げる ・事前にイベントの流れや散収時間などを明記したスケジュールを用意する ・混雑が予想される時間帯は館内放送を充実させ来場者の分散を計る ・館内放送で迷惑駐車をしないよう呼びかけをする		
事業の成果（課題や目標に対して）	・フリーマーケットやハンドメイドの販売では多くの問い合わせがあった ・手作り体験を希望した団体もあったが場所の都合上お断りしたので今後に繋げる ・子ども向けレクでは異学年交流する姿が見受けられた ・マルシェでは近隣住民による手作りのパンや文房具などが販売され好評だった ・最後にレクホールでなし坊体操をしてからビンゴ大会を行い参加者は楽しそうだった		
備考	.		

事業活動

事業名	さくセセンターサロン ほっとカフェ		
対象	市民		
参加人数	延べ 94 人		
事業の課題と目標	事業の課題 ・地域の交流する場が少ない 目標 ・地域交流の場を提供する ・団体の憩いの場を作る		
期間	5 月～3 月	回数	10 回
場所	中高生ルーム、市民ホール		
事業内容	10：00～15：00 1 杯 100 円のお茶やコーヒーを提供して、憩いの場を提供する。		
事業参加者への配慮等	・定着させるためにわかりやすい告知を掲示する ・広報へ掲載する ・焼き菓子にする ・乳幼児親子のために子ども用の机と椅子を用意する		
事業の成果（課題や目標に対して）	・利用団体の方たちに定期的に利用してもらえた ・地域の交流の場として周知ができた		
備考	.		

事業活動

事業名	もっとほっとルーム（年間登録制・児童館合同）		
対象	市内在住在学の中学生から１８歳未満の子ども		
参加人数	７人		
事業の課題と目標 課題	事業の課題と目標 ・放課後の子どもたちの健全な居場所が少ない ・家庭の事情などによって家で勉強しづらい子がいる		
目標	・学習面や精神面などの悩みを抱える中高生が気軽に集える場所にする ・自宅以外での居場所づくりを支援する ・子どもたちの安全安心な居場所をつくる		
期間	４月～３月	回数	３８回
場所	中高生ルーム、レクホールほか		
事業内容	第１～４金曜 １７時～１９時 開館時間を延長して居場所とする （第１は数学のアドバイザーが在席、第３はレクホールで体を動かせる、第４はＹＳＢ桜台と交流することもできる）		
事業参加者への配慮等	・自由に過ごせるようにする ・相談などがあるときには言いやすいような雰囲気をつくる		
事業の成果（課題や目標に対して）	・年間を通して参加する子が１、２名いた ・おしゃべりを楽しみにくる子や自主学習しに来る子が利用していた ・ハートの会の人との交流を目的にくる子もいて交流の場になっていた		
備考	・ ・		

事業活動

事業名	桜台センター利用者連絡会（総会）		
対象	桜台センターを利用しているサークルや団体		
参加人数	９団体（代表者各１名）（委任状を含む）		
事業の課題と目標 課題	事業の課題と目標 ・参加する団体が少ない		
目標	・参加数を増やせるように告知を工夫する ・利用者へ声掛けをしていく ・数値化した資料を配布し具体的に現在の利用状況を説明していく		
期間	５月	回数	１回
場所	研修室		
事業内容	・令和６年度役員選出 ・令和５年度センター事業報告 ・さくセンフェスタ開催の可否 ・センター利用についての案内ほか		
事業参加者への配慮等	・手渡しや声掛けをしてできるだけ多くの参加団体を増やす ・自治会へも声掛けしていく		
事業の成果（課題や目標に対して）	・委任状での参加が多かった ・自治会から公民館を利用する方の目に入るように各部屋への掲示の提案があった ・地域イズムについて近隣住民が参加してみたいと思える参加型の企画をしてはどうかと提案があった		
備考	・ ・		

事業活動

事業名	さくせんフェスタ実行委員会		
対象	さくせんフェスタに参加する団体		
参加人数	9 団体（代表者各 1 名）（委任状を含む）		
事業の課題と目標	課題 ・毎年さくせんフェスタでの係が埋まらない ・フェスタに参加する団体が少なくフェスタ存続が危うい 目標 ・ホワイトボードに板書して連帯感をだしていく ・係決めをスムーズにできるよう各参加団体の状況を聞きながら進行する		
期間	5 月～3 月	回数	3 回
場所	研修室		
事業内容	さくせんフェスタをスムーズに運営するために話し合う。		
事業参加者への配慮等	・ホワイトボードに板書していき何が決定していないかを一目で分かるようにする ・全体で共有感を出していく ・意見を言いやすい雰囲気づくり ・配布する資料の準備		
事業の成果（課題や目標に対して）	・参加団体の減少によりフェスタ開催が危うい現状を説明した ・フェスタは自治会としても続けてほしいといった意見があった ・イベントに参加できることを知らない人が多いと感じる ・目に入りやすいポスター形式で各部屋にも掲示をした方が良いいといった意見があった ・前年度のフェスタに比べて発表団体や体験会を開きたいといった団体が増えていった		
備考	・ ・		